

平成24年3月

春季研究会

小学校の新学習指導要領完全実施の年が終わり、また、平成24年度は中学校の新学習指導要領の実施の年になります。昨年の夏の全国大会では、新学習指導要領実施の中での個性化教育のあり方を探りました。引き続き、個性化教育の推進を進めて参りたいと新たに決意しているところです。

さて、そんな節目の年度変わりに、個性化教育の立場で素晴らしい成果を上げてきた二人の実践者の話をじっくりと聞き、今後の参考に、そんな研究会を計画いたしました。

三浦信宏先生には校長の立場で、深セン日本人学校と美浜打瀬小学校の学校づくりについて語っていただきました。竹内淑子先生には、実践者のリーダーとして、石浜西小学校の学校づくりについて語っていただきました。今回のテーマ「個性化教育を推進する学校づくり」について現役の実践家お二人に大いに語っていただきました。

■テーマ「個性化教育の学校づくり」

■期日 平成24年3月24日(土)

■場所 上智大学 2号館 1415室

■ 10:00~12:35 千葉市立美浜打瀬小学校 三浦 信宏校長
13:30~16:15 東浦町立石浜西小学校 竹内 淑子教諭



「魅力ある学校創り」 千葉市立美浜打瀬小学校 三浦 信宏

当学会では、千葉市立打瀬小学校の研究のリーダーとして名高い三浦先生の話は何度も聞いたが、校長になってからの話をまとまって聞くのは初めてだった。

自己紹介・個性化教育との出会い

当学会との出会いは、千葉市立小谷小学校時代である。オープンスクールではないが、個性化教育を実践し、加藤幸次先生とも出会うことになった。当時は当学会は「全個連」であった。ここで、個性化教育の実践と学校づくりの大切さを学んだ。その後、千葉市立打瀬小学校に転勤した。打瀬小学校は、当時全国的にも話題になったオープンスクールである。ここで、建物だけでなく、子ども中心の新しい教育実践を積み重ねた。この当時の話は今回のテーマではないが、その後の打瀬地区の教育の核になっている。その後、美浜打瀬小の教頭に就任し、日本人学校を経て美浜打瀬小学校の校長に就任したので、打瀬地区の全ての小学校で勤務することになった。



深セン日本人学校

校長の第一歩は、中国の日本人学校「深セン日本人学校」であった。深セン市は、香港の新界と接し、経済特区に指定されていることもあって、1500万の人口を要している。深セン日本人学校時代では、開校準備から関わることができ、一から学校づくりをするというとても貴重な経験になった。

経営の3つの柱

特色ある教育課程の編成と学校システムづくりの大きな柱として、次の3点を設定した。

「1. 現地理解」は、準備段階からのスタートだった。まず現地を理解することから始めたが、教育課程の編成、学校施設用品などの購入計画は、校長自身が作成した。ホテルを借りてのスタート、運動会の会場など、地元教育局の協力で体制を整えていった。現地校や外国語学校との交流を深めることができた。また、2年目に学校が認知されたことにより、現地で体験活動もできた。街探検だけでなく、ジャスコの見学やトヨタなどの工場見学ができた。職員レベルでは、先輩校の広州日本人学校との交流も行った。また、中国語と英語の学習も行い、現地理解に努めた。3年目には、これらの交流を深めると共に、商工会との連携やもちつき大会の実施、学校見学会も行った。社会科の副読本づくりの経験を活かして副読本づくりも行った。

「2. 特色ある教育活動」の一つ、「フレンズ活動」は異学年活動である。開校時全員が編入生であり、つながりが希薄だったので、異学年の交流に力を入れた。小学生から中学生まで幅広い集団である。全校遠足、運動会、ランチタイム、清掃や遊びで実施した。

当初少なかった学校の人数であったが、今後増えることを考えて充実した職員と現地スタッフを加えた教員集団を活かすために小学校から一部「教科担任制」を実施した。

現行学習指導要領が複数学年の目標を設定した教科を中心に、「異学年学習」を実施した。「教え合い」「学び合い」「高め合い」の学習ができた。「外国語学習」「交流学習」「体験・見学学習」は既に述べた通りである。保護者の参画・ボランティアの導入も実践した。

これらは、「3. それらを支える学校システム作り」によって支えられる。現地の現状に合わせるために2学期制に移行した。また、研究と学校創りを一体化させた。単元開発も同時に行っ

た。この他にも、教育計画の作成、在外ならではの購入・会計システムの構築、「イヤーブック」という思い出を残す記録、PTA活動のスタートと行事や活動の充実、在外ならではの「パス会」という組織の発足と運営など、たくさんの学校システムをスタートさせ機能させた。

千葉市立美浜打瀬小学校

日本に戻り校長として着任したのが、打瀬地区3つ目で一番新しい小学校の千葉市立美浜打瀬小学校である。

校舎の設計は、打瀬小学校を手がけた設計事務所シーラカンズで、個性的で印象的なデザインのオープンスクールである。また教師コーナーを教室と一体化した空間配置や、特別教室も地域開放できるように設計されている。バリアフリーや太陽光発電など環境に配慮した設備となっている。

美浜打瀬小での校長としての経営理念は、学校便り、校長室便り、ホームページを中心に教職員や保護者・子どもたちに伝えている。共感している学校経営の3原則「ロマン・スタッフ・カリキュラム」を最初に示し、「学校は知的遊園地」であるとして、知的刺激に満ち、一人一人が学びと生活を楽しむ場とすると、宣言して経営がスタートした。HPや学校便り、校長室便りには、行事・総合学習・パソコンの活用・中学生との交流・学校評価など、「知的」で「楽しい」学校生活の様子を紹介している。

三浦先生が中国の深セン日本人学校に赴任していた3年間の話を詳しく聞く機会がなかったという事情もあって、現任の学校の話よりも、日本人学校時代の話が長くなった。また、一からの学校づくりも、きつと貴重な体験だったからであろう。しかし、普通校舎の千葉市立小谷小学校での実践から始まり、打瀬小学校、海浜打瀬小学校、日本人学校、美浜打瀬小学校と、学校づくりに取り組んできた三浦先生の経験と言葉は、理念に共感している参加者にはひしひしと伝わってきた。途中から、同じように学校づくりを進めてきた、佐久間先生と多田先生が加わり、学校づくりや若手教師の育て方について、情報交換が行われた。

三浦先生は、最後に、学校は「知的遊園地」であり、「楽しいところ」である。教師はプラス思考で教育を進めたいと締めくくった。三浦先生の長い学校づくりの経験から、おおいに学び、エネルギーをいただくことができた。(佐久間)

「石浜西小学校での10年」 東浦町立石浜西小学校 竹内 淑子

何度か竹内淑子先生の話聞いたことがあるが、まとまって「学校づくり」というテーマで話を聞くのは初めてであった。レジュメに沿ってできるだけ紹介したい。

自己紹介・石浜西小学校での10年の始まり

緒川小学校に10年、卯ノ里小学校に10年と東浦町のオープンスクールの王道を歩いた後、石浜西小学校(以後「石西」と表記)に赴任した。石西はいわゆる困難校である。相当落ち込んだが、聞きしに勝る学校であった。1/3が外国籍であり、経済的に恵まれな家庭も多い学区であった。雨が降れば50~60人は欠席する。「(荒れている)子どもの姿に愕然とした」そんな学校なので、個性化教育とは無縁のように思われた。現職部長(研究主任)となり、まず、「音読」で学びの雰囲気作りをして、「総合読書」を新設し、さわやか発表会や日本国憲法前文の朗読などを始めた。卯ノ里小学校でやっていたことを石西でもやってみた。

- ・子どもの活躍の場を演出する…ゲストティーチャーを授業に呼び、キッズゾーンを取り入れる。発表を重ねると、子どもと親の評価が変わった。
- ・今まである行事を変えてみた…6年生を送る会、謝恩会
- ・保護者の心をつかむ…子どもの活躍を見せる、「学年便り」
- ・「できる」「わかる」喜びを…「漢字読みドリル」「習熟度別学習」

このような実践を通して、徐々に職員の支持が固まってきた。反面慎重にもなった。

小山儀秋校長の着任

- 平成17年度に小山校長が着任した。最初戸惑いもあったようだが、次々と施策を打ち出された。
- ・外国籍児童を「宝」として、学校の特徴として活かす…ワールドカップ「日本対ブラジル戦」を早朝に学校で見て応援する、日伯交流百周年、サタデーナイトスクール(土曜の夜の授業参観)
 - ・楽しい時間を用意して、とにかく学校に来させる…わくわくフリータイム、青空タイム、わくわくランチタイム、ニコニコデー、ギネス
 - ・外の空気を入れる…外部講師の招聘(佐野亮子先生)
 - ・地域を味方に付ける…団地のゴミ拾い、子どもを迎えに行く
 - ・校長の意思を受けて教職員がどう動くか…はじめは反感を持ったが校長の言葉に発憤
 - ・遅刻、欠席を減らしたい…学校に来るように仕向ける

「〇〇(マルマル)学習」のスタート

- ・〇〇学習(2教科同時進行単元内自由進捗学習)を唐突に決断した。唐突な決断だったが、勝算はあった。最初は3年生以上で実践し、次年度から単元数を増やした。
- ・〇〇学習の意義は、教材を工夫するので、教材研究の場になる。TTなので、指導を見合ったり、盗んだり批判したりする。同じ子どもの姿で学びを語ることができる。
- ・じわじわと確実に浸透していった。

広がるネットワーク

- ・町の現職発表会から、全県連(本学会の前の組織名)の研修会、全国大会での発表、町内の研修会、JSLカリ公開研、公開研究会、拡大現職全体会と、石西の実践は、ネットワークとして広がっていった。実践をまとめた本も出版した。

「行事」は120%の完成度を目指す

石西では「行事」も学校づくりの大きな要素だった。土曜の夜の学校公開、早朝のワールドカッ



ブ観戦、箏の師範に指導してもらった箏の演奏、子どもたちの踊りを重点にした祭り、数々のデコマス、卒業制作など、完成度の高い、密度の高い行事を目指して実践してきた。

発表の中で竹内先生が語った「若手は必ず育つ」という言葉は、石西の教育が若手教師を確かに育て、当学会で若手が発表したり、転勤してからも実践をしたりと我々が実感していることでもある。共に実践した若手教師がプレゼンをサポートしていて、コメントもしてくれて確からしさを実感させてくれた。

また、小山先生も当日研究会に参加され、途中から発表に参加された。飄飄とした語り口の中に、アイデア、決断、理念、エネルギーを感じさせる素晴らしい「校長先生」であることが感じられた。この素晴らしい石西の学校づくりは竹内先生のリーダーシップがなければ実現できなかったが、小山校長のリーダーシップもまた不可欠だったと感じた。

このような素晴らしい実践を生んだエネルギーを竹内先生は、「人気と実力を兼ね備えた教師でありたい」「本当に子どものためにやっていることか」という言葉で表現していた。「確たるロマンと確かな理念」と「成長する子どもの姿」は、教師の夢とエネルギーであること、その力が学校をつくる「力」であることを竹内先生から学ぶことができた。

今、最も優れた学校づくりをしている石浜西小学校と今最も優れた個性化教育のリーダーである竹内先生のおおいに刺激を受け、エネルギーをいただいた発表だった。(佐久間)

平成23年度 日本個性化教育学会 会計報告 平成24年5月12日

【収入の部】

項 目	予 算	決 算	備 考
個人会費	800,000	764,000	4000円×191
団体会費	35,000	35,000	7000円×5
繰越金	374,477	374,477	前年度繰越金
預金利子	0	18	利息
その他	120,000	520,000	免許更新・研究会等
合 計	1,329,477	1,693,495	

【支出の部】

項 目	予 算	決 算	備 考
事業費			
全国大会活動補助費	100,000	0	大会開催個研への運営補助
春季研究会運営費	100,000	339,832	全国大会開催運営費
各個研活動補助費	250,000	48,767	会場費・発表者交通費等
学会誌刊行費	400,000	250,000	東北・東海・関西・九州・中国・四国の各個研
広報活動費	200,000	338,679	学会誌編集印刷・編集通信費等
会 合 費	50,000	300,130	会報発送・HP運営
事務費		56,945	事務局運営・海外交流等
郵送・通信費	50,000	12,750	連絡通信等
印刷費	100,000	61,908	封筒・振込用紙印刷等
消耗品費	70,000	376	印刷用紙・文具等
諸 費	9,477	5,880	弔電・手数料等
合 計	1,329,477	1,415,267	

○差し引き残高

1,693,495 - 1,415,267 = 278,228

上記の通り決算報告いたします

会 長 加 藤 幸 次
事務局長 奈 須 正 裕
会計部長 五十子 晴 美

以上相違ないことを報告いたします(監査済み、印鑑省略)

会計監査 石 坂 和 夫 中 澤 米 子

平成24年度 日本個性化教育学会 会計予算案 平成24年5月12日

【収入の部】

項 目	内 訳	予 算
会 費		
個人会費	4000円×200	800,000
団体会費	7000円×5	35,000
前年度繰越金		278,228
預金利子		0
その他	免許更新・研究会	120,000
合 計		1,233,228

【支出の部】

項 目	内 訳	予 算
事業費	全国大会活動補助費	100,000
	春季研究会運営費	50,000
	各県研活動補助費	250,000
	学会誌刊行費	400,000
	学広会誌刊行費	300,000
事務費	郵送・通信費	20,000
	印刷・消耗品費	50,000
	印刷用紙・文具等	10,000
	印電・手数料等	3,228
合 計		1,233,228

会長 加藤 幸次 事務局長 奈須 正裕 会計部長 五十子 晴美 (印鑑省略)

日本個性化教育学会組織 平成24年度

全国

(関東甲信越および北海道を含む)

会長	加藤 幸次	紀要編集委員長	浅沼 茂	事務局組織と責任者	庶務部長	佐久間 茂和	広報部長	中田 泰志
副会長	高浦 勝義	事務局長	奈須 正裕	庶務部長	五十子 晴美	研修部長	館岡 茂樹	松本 光弘
副会長	辻村 哲夫			会計部長		中高部長		

東北個性化教育学会

会長	渡部 力	監査	島山 厚子	研修企画部	斎田 淳一	会計	渡部 綾子
副会長	吉村 敏之	監査	三井 裕	広報部長	森 直	会計	井上 かおり
副会長	五十嵐 隆一	事務局長	猪股 亮文		高橋 義典	渉外	角田 麗佳
副会長	石澤 壽子	研修企画部長	高橋 清		千葉 慎一	渉外	横岸 香織
副会長	大谷 敬司		岡 雅佳	庶務部長	鈴木 美佐緒	渉外	小助川 陽子
					千葉 容子		

東海個性化教育学会

顧問	新美 一成	監査	万徳 久志	幹事	神谷 京子	理事	平松 進吾
顧問	戸田 州一	監査	小池 嘉志	理事	魚住 忠久		久野 弘幸
会長	稲葉 耕一	事務局長	伴 浩人		成田 幸夫		榎原 富徳
副会長	宮島 年夫	幹事	榎原 将道		浅野 京子		河合 健治

関西個性化教育学会

会長	山本 克典	顧問	鈴木 正幸	理事	岩崎 純子	理事	加藤 昭弘
副会長	佐藤 真		今谷 順重		西浦 博久		古川 光弘
事務局長	谷口 育史		末方 雄郎		堀 和弘		藤田 晴雄
		理事	戸江 茂博		藤本 博嗣		鈴木 成文

中国個性化教育学会

顧問	永地 正直	副会長	山田 邦夫	庶務・会計部	田村 尚美	研究部	芝田 秀樹
会長	河名 達雄	事務局長	長谷川 淑恵		中村 元子		田中 孝一
副会長	睦田 政信	事務局次長	常森 茲正		為岡 俊江		宮野 大輔

四国個性化教育学会

会長	長尾 順二	事務局長	谷本 和子
副会長	川口 加代子		

九州個性化教育学会

会長	光武 充雄	事務局長	田島 隆一
副会長	藤田 秀治	顧問	前崎 敏雄

(事務局への問い合わせ・連絡先)
 庶務部長 佐久間 茂和
 〒338-0013 埼玉県さいたま市中央区
 鈴谷 3-9-14 TEL 048(678)1681
 e-mail sakuma.s@s7.dion.ne.jp
 日本個性化教育学会ホームページ
<http://koseika.com/>

日本個性化教育学会 第14号
 平成24年 5月12日発行
 編集責任者 事務局長 奈須 正裕
 編集 広報部 中田 泰志